

令和5年度 年間指導計画

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	農業	科目	生物活用	単位数	2	学年・学科	2学年・D科(選択)
教科書	実教出版「生物活用」		副教材				

学習目標	植物栽培や動物飼育に必要な知識と技術を習得し、それらの特性を生かした活動や療法の特質について理解を深めます。そして、生物を活用し、身体的・精神的・社会的な向上を図る能力と態度を育てます。
学習方法	植物栽培や動物飼育の体験も行うことで、基本的な栽培方法・飼育方法に関する知識・理解の定着を図り、生物活用の身体的・精神的・社会的効用について考えます。

学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					調査	調査以外
学習評価	a 知識・技能	栽培方法や飼育方法、特性を生かした活動や療法の特質について理解することができ、植物栽培や動物飼育が適切に行える、科学的データや統計表を読み解くことができる。	前期中間	30%	20	10
			前期末	30%	20	10
			後期中間	30%	20	10
			後期末	30%	20	10
	b 思考・判断・表現	植物や動物の活用方法、身体的・精神的・社会的にどのような効用をもたらすか考えることができる。	前期中間	35%	15	20
			前期末	35%	15	20
			後期中間	35%	15	20
			後期末	35%	15	20
	c 主体的に学習に取り組む態度(意欲)	植物や動物の特性、活用方法、社会的課題に興味関心がある。	前期中間	35%	15	20
			前期末	35%	15	20
			後期中間	35%	15	20
			後期末	35%	15	20

学期	単元名(題材)	学習内容(小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	生物活用の意義と役割 植物・園芸と人間生活 野菜・草花の栽培と活用	・植物や動物とふれ合い、世話することによって、生物を福祉的に、あるいは療法的に活用して、思いやることの意義と役割を学びます。	○		○	a:植物の留意点(健康被害等)の資料を読み解くことができ、植物や動物の身体的・精神的・社会的な効用を理解することができる。花壇等のデザインができる。野菜・草花の栽培方法を理解することができる。 b:植物がもたらす効用を考えることができる。バリアフリーとユニバーサルデザインが必要な場所を考えることができる。 c:植物や人間との関係について興味関心がある。バリアフリーとユニバーサルデザインに興味関心がある。	・授業ノート ・授業プリント ・小テスト ・実習レポート ・授業態度 ・作物管理状況 ・定期調査
		・人間と植物・園芸との関係、生活における植物および園芸の多面的な利用、植物を扱う際の留意点を学びます。	○	○			
		・草花・野菜の栽培法を学びます。	○				
		・花壇・アレンジメント・緑化などのデザインの基本を学びます。	○				
		・バリアフリーとユニバーサルデザインの基本を学びます。		○	○		

前期末	動物と人間生活	・人間と動物がどのように関わってきたか、動物とのふれ合いがもたらす様々な効用、どのように医療分野に応用されているかを学びます。	○	○	a:植物の留意点(健康被害等)の資料を読み解くことができ、植物や動物の身体的・精神的・社会的な効用を理解することができる。 b:植物がもたらす効用を考えることができる。科学的データや統計表を読み解くことができ、療法には何が必要かを理解することができる。 c:植物や動物、人間との関係について興味関心がある。	・授業ノート ・授業プリント ・小テスト ・実習レポート ・授業態度 ・定期考査
	生物を活用した療法	・植物や動物を活用した活動と、植物や動物を活用した療法の違いを学びます。	○	○		
	園芸療法	・植物や動物とふれ合い、世話することによって、生物を福祉的に、あるいは療法的に活用して、思いやることの意義と役割を学びます。	○	○		
後期中間	園芸療法	・植物や動物とふれ合い、世話することによって、生物を福祉的に、あるいは療法的に活用して、思いやることの意義と役割を学びます。	○	○	a:科学的データや統計表を読み解くことができ、療法には何が必要かを理解することができる。立案したことをクラス内でやってみて、振り返りができる。障がいの特性、適する対応について理解することができる。 b:療法とはどういうものか考えることができ、交流活動を立案することができる。 c::人間と動物の関係に興味関心がある。交流活動に興味関心がある。	・授業ノート ・授業プリント ・小テスト ・実習レポート ・授業態度 ・定期考査
	生物活用の実際	・これまでに学んだ知識や技術を生かして交流活動の企画を立案します。	○	○		
後期末	イヌの飼育と活用	・イヌの起源や歴史、品種や行動特性、飼育と管理方法、どのように活用されているかを学びます。	○	○	a:動物の特性と活用方法を関連づけることができ、動物の特性と飼育方法を理解することができる。 b:動物の療法的活用方法を考えることができる。 c:動物に興味関心がある。	・授業ノート ・授業プリント ・小テスト ・実習レポート ・授業態度 ・定期考査
	ウマの飼育と活用	・ウマの起源や歴史、品種や行動特性、飼育と管理方法、調教、どのように活用されているかを学びます。	○	○		
	動物介在療法	・何らかの援助を必要とする人たちの生活の質を、動物を活用してどのように向上させるのかを学びます。	○	○		